

インフリキシマブBS
点滴静注用100mg「日医工」
による治療を受ける
ベーチェット病による
難治性網膜ぶどう膜炎の方へ



ベーチェット病とはどのような病気ですか

ベーチェット病(Behçet's disease)は口腔粘膜のアフタ性潰瘍、外陰部潰瘍、皮膚症状、眼症状の4つの症状を主症状とする慢性再発性の全身性炎症性疾患です。トルコのイスタンブール大学皮膚科Hulusi Behçet^{フルス ベーチェット}教授が初めて報告し、この名がつけられました。



原因はわかっているのですか

病因は現在も不明です。しかし何らかの内因(遺伝素因)に外因(感染病原体やその他の環境因子)が加わり、白血球の機能が過剰となり、炎症を引き起こすと考えられています。

最近、ベーチェット病でも他の疾患と同様に全ゲノム遺伝子解析が進められ、発症に強く影響する遺伝子が次々と同定されてきています。

一方、外因についても虫歯菌を含む細菌やウイルスなどの微生物が侵入すると異常な免疫反応が炎症を引き起こし、結果としてベーチェット病の発症に至るという考えが有力です。

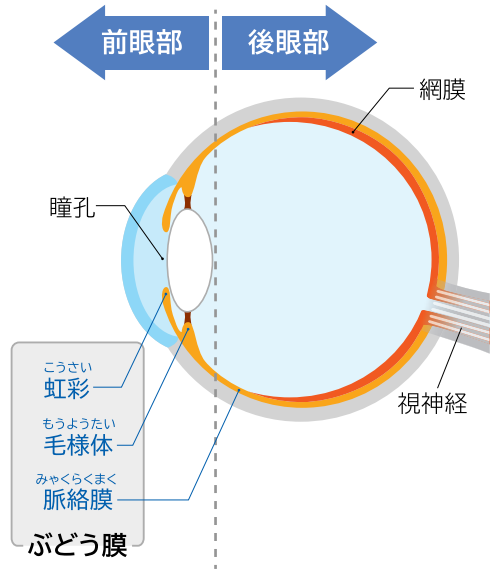
どのような症状がおきますか

眼症状は、この病気でもっとも重要な症状です。

ほとんど両眼が侵されます。

前眼部病変として虹彩毛様体炎が起こり、眼痛、充血、羞明^{しゅうめい}(まぶしい)、瞳孔不整がみられます。

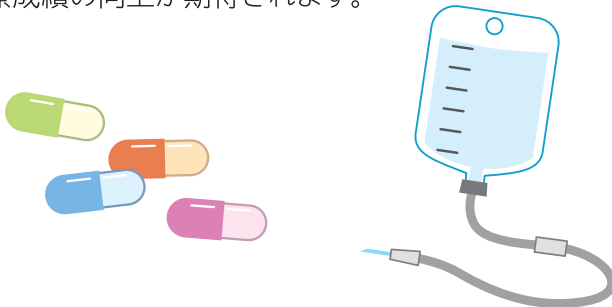
後眼部病変として網膜脈絡膜炎を起こすと発作的に視力が低下し、障害が蓄積され、ついには失明に至ることがあります。



どういう経過をたどるのですか

特に眼底型の網膜ぶどう膜炎がある場合の視力の予後は悪く、かつては眼症状発現後2年で視力0.1以下になる率は約40%とされてきました。

この数字はシクロスポリン導入以後、改善してきました。さらにインフリキシマブの登場により、治療成績の向上が期待されます。



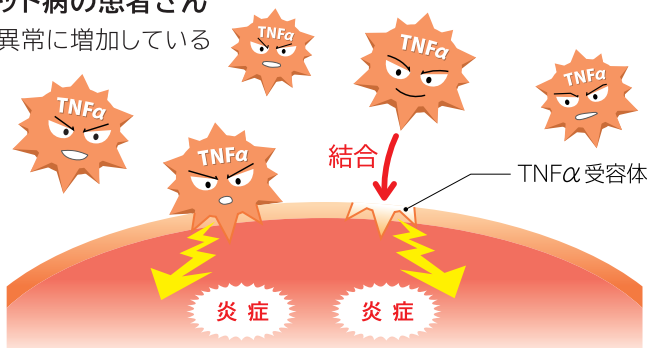
インフリキシマブBSの作用

インフリキシマブBSは、バイオテクノロジーを応用して製造されたインフリキシマブ製剤のバイオシミラー（バイオ後続品）です。

ベーチェット病に関わっているTNF α の働きを抑えることで、効果を発揮します。

ベーチェット病の患者さん

TNF α が異常に増加している



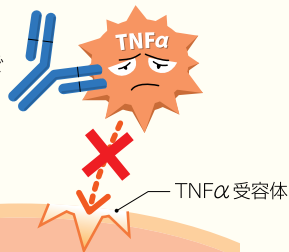
インフリキシマブBSの作用

① TNF α と結合することで
その働きを抑えます。



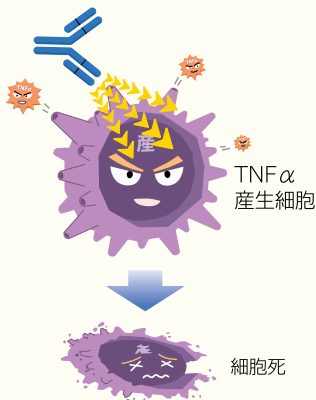
インフリキシマブBS

TNF α と結合し
受容体への結合を防ぐ



細胞

② TNF α を作り出す細胞を
壊します。



※イラストはイメージです。

インフリキシマブBS治療前の注意事項

1) 投与前の確認事項

インフリキシマブBSを、投与できる方とできない方がいらっしゃいます。

次の方は、必ず主治医にお伝えください。

- ベーチェット病以外の病気のある方
- 現在、服用中のお薬がある方
- 以前にお薬などで発疹やかゆみなどのアレルギー症状が出たことのある方
- これまでに生物学的製剤の治療を受けたことがある方
- ワクチン接種の予定がある方
- 現在、咳やのどの痛み・はれ、熱などの症状がある方
- 現在、妊娠または妊娠している可能性のある方、授乳中の方
- 次の病気にかかったことがある方
 - ・感染症（敗血症、肺炎など）
 - ・間質性肺炎
 - ・うっ血性心不全
 - ・悪性腫瘍
 - ・重篤な血液疾患
 - ・脱髄疾患（多発性硬化症など）
 - ・肝炎（B型肝炎、C型肝炎）
 - ・糖尿病
 - ・結核にかかったことがある方、または身の回りに結核の方がいる方
- シクロスポリン治療歴

また、他の医療機関を受診する場合や、薬局で他のお薬を購入する場合は、必ずこのお薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

2) 治療前の検査

インフリキシマブBSは、細菌やウイルスなどから体を守る「免疫力」を弱めるため、本剤による治療を始めると、感染症にかかりやすくなったり、からだの中でおとなしくしていた細菌やウイルスが活動を始める可能性があります。

そのようなことを防ぐために投与を開始する前に以下のような検査を行います。

- ① 問診（敗血症、肺炎などの感染症の有無）
- ② 結核検査（ツベルクリン反応検査/インターフェロン- γ 遊離試験）
- ③ 画像検査（胸部X線、胸部CT）
- ④ 血液検査（白血球数、リンパ球数、 β -Dグルカン、肝炎ウイルスなど）

特に注意すべき副作用

インフリキシマブBSを投与中や投与後に、「いつもと何か違う」と感じる事があれば、主治医に相談してください。

特に以下のような症状があらわれたら、次の受診を待たずにただちに主治医に相談してください。



風邪のような症状が続く
(発熱、咳がでる、のどが痛い、
頭が痛い、寒気がする など)



息苦しい、胸の痛み、
冷や汗、動悸、息切れ、
から咳



体がだるい、疲れやすい、
吐き気、嘔吐、
白目や皮膚が黄色くなる



皮膚に発疹、
かゆみがある、
顔や手足のむくみ



めまい、目が見えにくい、
顔や手足の異常な感覚、
考えがまとまらない



あおざがでできる、
出血しやすい



筋肉や関節の痛み、
手足のしびれ、手足のこばり、
コーラ色の尿

日常生活での注意点

全身の休養と保温に気をつけ、ストレスの軽減に努めてください。歯磨きなどで口腔内の衛生に留意し、虫歯、歯肉炎の治療も重要です。また、喫煙は病気の悪化因子ともなるので禁煙に努めてください。食事については、特に禁忌や推奨するものではありませんが、バランスのとれた食事を心がけましょう。